

2017 年度聖書の集い（第 4 回）

2017 年 9 月 13 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 17 番 「喜びの朝も」
- 2、お祈り
- 3、聖書 ヨハネによる福音書 14 章 1 節～4 節
(新約聖書 196 ページ)

4、今日の内容

キリスト教のおまつり「④ ハロウィン」



今月は「ハロウィン」についてお話しします。ここ数年、ハロウィンは日本においても一大イベントと化しています。しかし単なる仮装パーティーだと思っている人も多いし、何よりもキリスト教と少なからず関係があることを知らない人も多くいるでしょう。

では一体、ハロウィンとは何のお祭りなのでしょう。

① ハロウィンはキリスト教の「お盆」？

フレスコではすでに、ハロウィン用のお菓子などが販売されています。しかしハロウィンはまだまだ先で、10月31日がその日となります。この日にちには意味があります。

キリスト教では11月1日を「諸聖徒日」、11月2日を「諸魂日」と呼び、すべての亡くなった方々のことを心に覚え、祈る日となっています。仏教のお盆のようなものでしょうか。そして諸聖徒日の前日には、その魂にまぎれて魔女や悪霊がやってきてイタズラをすると考えられてきました。

そこで子どもたちが魔女や悪霊などに仮装して、「トリック オア トリート！」（お菓子をくれないとイタズラするぞ！）と脅かし、お菓子をもらうという習慣が生まれていきます。これが「ハロウィン＝仮装」となっていきます。

ただ「魔女」や「イタズラ」という部分は他の宗教から取り込まれたものだと考えられており、キリスト教の教派の中にはハロウィンを完全否定しているところもあるので、注意が必要です。

② お化けかぼちゃ「ジャック オ ランタン」のお話し

またハロウィンといえば、「お化けカボチャ」をイメージする方も多いでしょう。わたしの家でも毎年飾っていますが、年々手に入れやすくなってきました。

このかぼちゃ（アメリカなどでは「かぶ」を使う）にも意味があります。

「ジャック オ ランタン」のお話し

昔、ジャックというかじ屋さんがいました。彼はなまけ者で、よくうそをついていました。ある日、彼がいつものように酒場にいるとそこに悪魔が来ました。お酒を飲みすぎてお金がなくなっていたジャックは、自分の魂と引き換えにお金を貸してくれるように頼みました。

悪魔がコインに変身した瞬間、ジャックは銀の十字架でコインを押さえつけ、悪魔が元に戻れないように財布に押し込んでしまいました。元の姿に戻れず困った悪魔は、この先10年間、ジャックの魂を取りに来ないことを約束します。

それから10年後、ジャックが田舎道を歩いていると悪魔がやってきました。10年過ぎたので、ジャックの魂を取りに来たのです。ジャックは魂をあげるふりをして、最後に木の上のリンゴが食べたいと言いました。意外に優しい悪魔は木に登ってジャックにりんごを渡すと、ジャックはナイフで木に十字架を刻み込みました。十字架が苦手な悪魔は、木から下りられなくなってしまいました。困った悪魔は、二度と彼の魂をとらないと約束しました。

月日は流れ、ジャックは死にました。当然彼は、天国へは行けません。そこで仕方なく、彼は地獄へ行くことにしましたが、地獄の門番をしていた悪魔はジャックの魂を取ることができません。地上をさまようことになったジャックは、明かりが欲しいと悪魔に頼みます。すると悪魔は地獄の炎を投げてよこしました。ジャックは大好きだったカブをくりぬいてその炎を入れ、今もさまよっています。

③ ハロウィンでは何を大切にしてほしいか

一つは、亡くなった方のために祈るということです。日本のハロウィンではお化けや仮装など、遊びの要素が強いですが、もともとは死者のためのお祭りでした。楽しみながらも、いろんな方の支えや導きによって今があるということ、少しだけでも子どもたちに教えていけたらと思います。

そしていろいろな人との交流です。うちのハロウィンでは、近くのお店にも協力してもらい、「トリック オア トリート」ごっこをしています。みんなでお祭りを楽しむのです。人と人とが知り合い、関わる中に、たくさんの温かみを感じてほしいものです。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から